




# 撮影する(基本編)

ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。



## 基本的な撮影のしかた


### 撮影モードを設定する

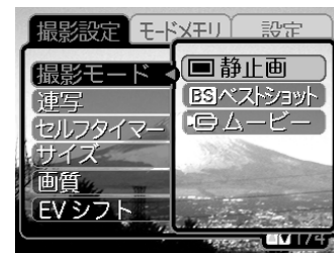
本機には3つの撮影モードがあります。撮影する前に下記のように操作して、撮影したい被写体に合った撮影モードに設定してください。



-  (静止画モード)  
静止画を撮影するときに設定します。通常はこのモードに設定してお使いください。
-  (ベストショットモード)  
簡単に綺麗な写真を撮りたいときに設定します。23種類のシーンの中から撮影したいシーンを選び、煩わしい設定をカメラにまかせることができます(62ページ)。
-  (ムービーモード)  
動画を撮影するときに設定します(70ページ)。


1. 【電源ボタン】または【】(REC)を押します。

2. 【MENU】を押し、【】【】で“撮影設定”タブを選びます。

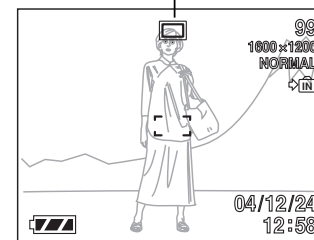
3. 【】【】で“撮影モード”を選び、【】を押します。



4. 【】【】で設定したい撮影モードを選び、【SET】を押します。

- 【液晶モニター】に撮影モードを示すアイコン(“”など)が表示されます。

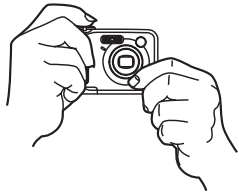
撮影モードアイコン



## カメラの正しい構えかた

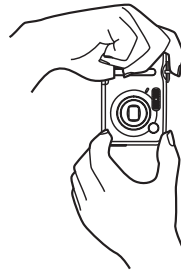
カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ぶれを起こす恐れがあります。

### ●横に持つ場合



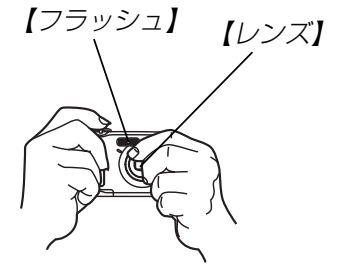
両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかり締めてください。

### ●縦に持つ場合



縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上になるようにして、カメラをしっかり持ってください。

- 重要!**
- 指やストラップが、右記の部分にかからないように注意してください。



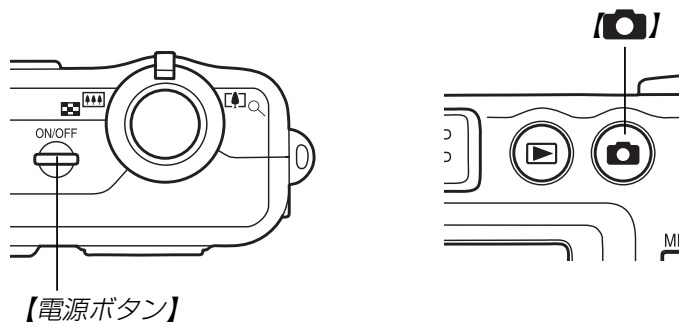
- 参考**
- 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときは、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。


## 撮影する

本機は被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵メモリーに保存されます。


- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC<マルチメディアカード>)に保存することもできます(107ページ)。

### 1. 【電源ボタン】または【】(REC)を押して、電源を入れます。






- 【液晶モニター】に画像が表示されます。
- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- すでに電源が入っている状態で下記のようにPLAY(再生)モードになっている場合は、【】を押してREC(撮影)モードに切り替えてください。

－「ファイルがありません」と表示されている。

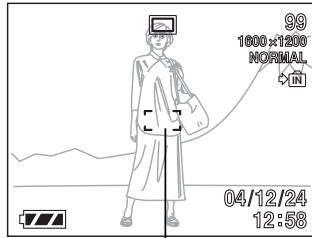
－“”が【液晶モニター】の上部に表示されている。

### 2. “撮影モード”を“静止画”に設定します。

- 静止画モードに設定すると、【液晶モニター】に“”が表示されます。
- 設定のしかたは、「撮影モードを設定する」(38ページ)をご覧ください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【】【】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます(79ページ)。

3. 【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。

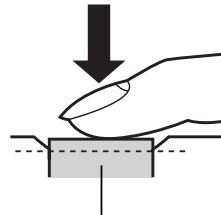
- 撮影できる距離は、フォーカスモードによって異なります(53ページ)。
- 【ファインダー】から被写体を見て撮影することもできます(43ページ)。
- 【ファインダー】から被写体を見るときは、【DISP】を押して【液晶モニター】を消すことで、電力の消費を減らすことができます(22ページ)。



【フォーカスフレーム】

4. 【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

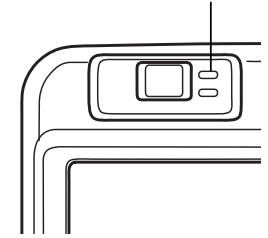
- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度と絞り値が表示されます。



【シャッター】

- ピントは【フォーカスフレーム】や緑の【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

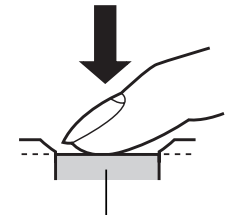
緑の【動作確認用ランプ】



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯


5. ピントが合っていることを確認して、【シャッター】を全押しします。

- サイズ、画質によって保存できる枚数が異なります(51、52、160ページ)。



【シャッター】

### 撮影時のご注意

- 緑の【動作確認用ランプ】が点滅している間に【電池カバー】を開けることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微かなちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(74ページ)は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(74ページ)は、被写体が暗いときは感度を上げてシャッタースピードを速くなるようにしていますが、フラッシュの発光方法(46ページ)が  (発光禁止)のときには手ぶれに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

### オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。
  - － 階調のない壁などコントラストが少ない被写体
  - － 強い逆光のもとにある被写体
  - － 光沢のある金属など明るく反射している被写体
  - － ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - － カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - － 暗い場所にある被写体
  - － 手ぶれをしているとき
  - － 動きの速い被写体
- 緑の【動作確認用ランプ】が点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(57ページ)やマニュアルフォーカス(56ページ)をご利用ください。

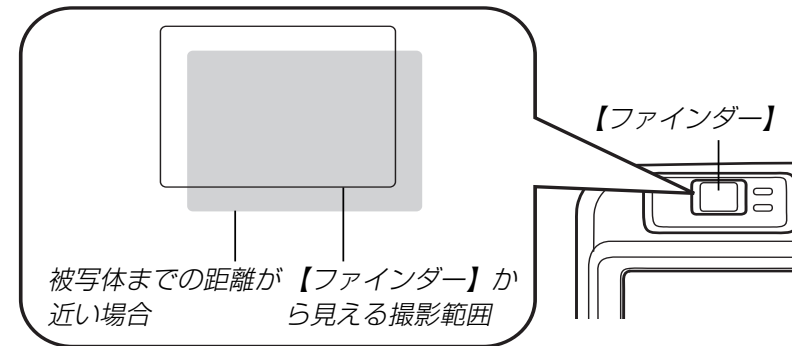
## 撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画(70ページ)にはそのまま記録されますので、ご注意ください。

## ファインダーを使って撮影する

電池の消費を抑えるために【液晶モニター】をオフ(22ページ)にし、【ファインダー】を使って撮影することができます。

- 重要!** • 【ファインダー】から見える撮影範囲は約1m以上離れた被写体を撮影した場合の範囲を表します。被写体の距離が近い場合、視差の関係で実際に写る範囲が異なります。



- マクロモードやマニュアルフォーカスモードでは、【液晶モニター】をファインダーとして使用してください。【液晶モニター】は視差の問題がないため、記録される画像が正しく表示されます。

## ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

### 光学ズームを使う

光学ズーム機能により、レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1～3倍

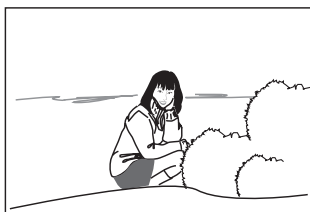
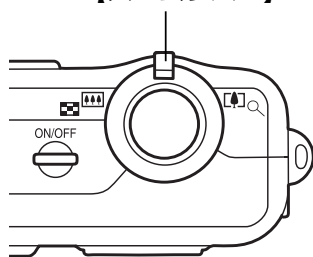
#### 1. RECモードにします。

#### 2. 【ズームレバー】をスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

☹☹☹(広角)：広角になります。

☹☹☹☹☹(望遠)：望遠になります。

【ズームレバー】



広角



望遠

### 3. 撮影します。

- 参考**
- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
  - 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
  - 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます。
  - マクロ(接写)／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に撮影可能な距離の範囲が表示されます(56、57ページ)。

### デジタルズームを使う

デジタルズーム機能により、光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率：3～12倍(光学ズーム併用)

#### 1. RECモードにして【MENU】を押します。

#### 2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。

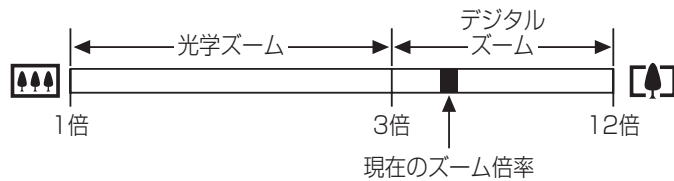
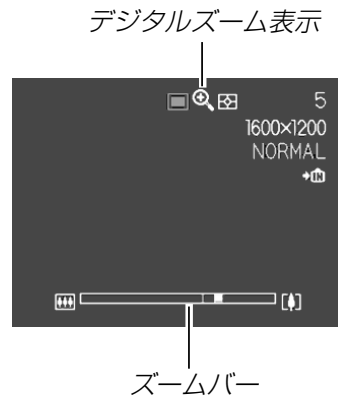
#### 3. 【▲】【▼】で“デジタルズーム”を選び、【▶】を押します。

#### 4. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。

- “切”を選ぶと、デジタルズームは働きません。

#### 5. 【ズームレバー】を【▲】(望遠)側にスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

- 【ズームレバー】を操作して光学ズームが最も望遠になると、いったんズーム動作は停止します。その後、【ズームレバー】を【▲】(望遠)側にスライドさせると、デジタルズームに切り替わります。
- 【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。



#### 6. 撮影します。

- 重要!**
- 【液晶モニター】をオフに設定している場合は、デジタルズームを使って撮影することはできません(22ページ)。
  - デジタルズームを使ってズーム撮影すると、画面の中央をデジタル処理により拡大するため、光学ズームと異なり画像是粗くなります。



## フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

- フラッシュの撮影範囲は下記の通りです。
  - 広角時：約0.6m～約2.6m(ISO感度オート時)
  - 望遠時：約0.6m～約2.1m(ISO感度オート時)

### 1. RECモードにします。

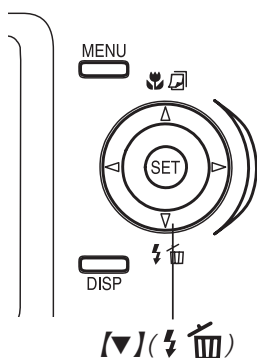
### 2. 【▼】(🔍)を押して、フラッシュの発光方法を選びます。

- 【▼】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。

表示なし(フラッシュオート)：  
露出(光の量や明るさ)に合わせて自動的に発光します。

- アイコンガイドを使用している場合は、“**ZA**(フラッシュオート)”を選んで下さい。(107ページ)

**🚫**(発光禁止)：  
露出に関係なく発光しません。



**⚡**(強制発光)：  
露出に関係なく強制的に発光します。

**👁**(赤目軽減)：  
フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

フラッシュモード表示



### 3. 撮影します。

- 重要!**
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光(露出情報を得るための予備発光)し、最後にメイン発光(フラッシュ撮影するための発光)することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
  - 赤の【動作確認用ランプ】が点滅中に【シャッター】を押しても、撮影できない場合があります。
  - ISO感度が“オート”の場合は、感度が高くなるため、フラッシュ使用時にノイズが多くなります。ISO感度を下げると撮影範囲(フラッシュの光が届く範囲)が短くなりますが、ノイズは少なくなります(74ページ)。

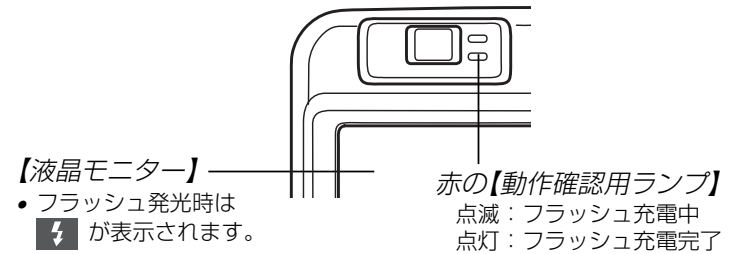
## ■ 赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

- 重要!**
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
    - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
    - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

## フラッシュの状態について

フラッシュの状態については、【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や赤の【動作確認用ランプ】で確認できます。



## フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“フラッシュ光量”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2 : 強く光る  
+1  
0  
-1  
-2 : 弱く光る

↑  
↓

**重要!** • 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

## フラッシュ撮影時の光量の不足を補う (フラッシュアシスト機能)

フラッシュの撮影範囲よりも遠い被写体を撮影したとき、撮影に必要なフラッシュ光量が得られずに、被写体が暗く写ってしまう場合があります。そのような場合、この機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光がより遠くへ届いたときと似たような効果を得ることができます。



フラッシュアシスト機能未使用



フラッシュアシスト機能使用

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“フラッシュアシスト”を選び、【▶】を押します。

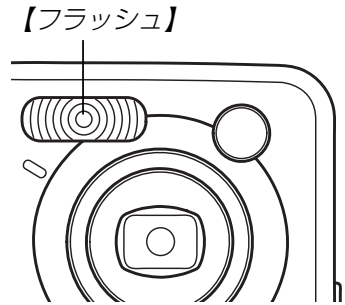
#### 4. 【▲】【▼】で“オート”を選び、【SET】を押します。

- “切”を選ぶと、フラッシュアシスト機能は働きません。


- 重要!**
- 被写体によっては、思ったような効果が得られないことがあります。
  - 下記のような操作を行ったとき、フラッシュアシスト機能を使用した撮影結果にほとんど変化が表れない場合があります。
    - フラッシュ光量を切り替えたとき(48ページ)
    - 露出補正(EVシフト)を行ったとき(58ページ)
    - ISO感度を切り替えたとき(74ページ)
    - コントラストの設定を切り替えたとき(76ページ)

#### フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- フラッシュ撮影時の被写体までの距離が遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。  
数秒～10秒程度(フル充電の場合)
- 下記の撮影では、フラッシュは発光しません。このとき $\text{ⓧ}$ (発光禁止)が表示されます。  
無限遠( $\infty$ )撮影(56ページ)、連写(61ページ)、動画撮影(70ページ)
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき $\text{ⓧ}$ (発光禁止)が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに電池を充電してください。
- 暗い場所で撮影するときにフラッシュを“ $\text{ⓧ}$ ”(発光禁止)に設定すると、シャッター速度が遅くなるので、手ぶれを防ぐために、カメラを三脚などで固定するようにしてください。なお、このとき撮影した画像は多少ざらついた感じ(ノイズが発生した画像)になる場合があります。



## 撮影する(基本編)

-  (赤目軽減)では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。
- 広角やマクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像に影が映し込まれることがあります(44、55ページ)。特にマクロ(接写)でフラッシュ撮影した場合は目立ちやくなりますので、ご注意ください。

## セルフタイマーを使って撮影する

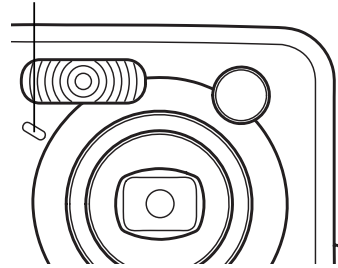
【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する(トリプルセルフタイマー)こともできます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“セルフタイマー”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】でセルフタイマーの時間を選び、【SET】を押します。
  - 10秒 : 10秒後に撮影されます。
  - 2秒 : 2秒後に撮影されます。
  - ×3 : 10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます(トリプルセルフタイマー)。
  - 切 : セルフタイマーは使用できません。

## 5. 撮影します。

- 【セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を半押しすると、セルフタイマーを解除することができます。【シャッター】を全押しすると、最初から再度カウントダウンを始めます。

【セルフタイマーランプ】



- 参考**
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ぶれ防止になります。
  - トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の“サイズ”や“画質”と使用するメモリーまたはフラッシュの充電の有無によって異なります。
  - 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーは使用できません。  
連写(61ページ)、カップリングショット(66ページ)、プリショット(67ページ)、ビジネスショット(68ページ)

## 画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数(pixels)で表したものです。この画素数は1枚の写真を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きいほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“サイズ”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。
  - 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズが交互に表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

## 撮影する(基本編)

画素数 (pixels)		プリントサイズ
大きい ↑	2816×2112	A3プリント
	2816×1872 (3:2)	A3プリント ※横縦比が3:2になります。
	2048×1536	A4プリント
	1600×1200	2L判プリント
↓	1280×960	L判プリント
小さい	640×480	Eメール ※Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

- 「プリントサイズ」は、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- “2816×1872(3:2)”を選ぶと、プリント紙の横縦比3:2に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

## 画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。用途に合わせて画質を変更してください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

高精細 : 高画質で記録します。  
標準 : 標準の画質で記録します。  
エコノミー : 低画質で記録します。

**参考** • 画質を選択するときは、下記の表を目安にしてください。

設定内容		選択時の目安
高画質 ↑ ↓ 低画質	高精細	画質を優先したいとき
	標準	通常の撮影をするとき
	エコノミー	撮影枚数を優先したいとき

**重要!** • 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(20、160ページ)。


# 撮影する(応用編)

本機はさまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

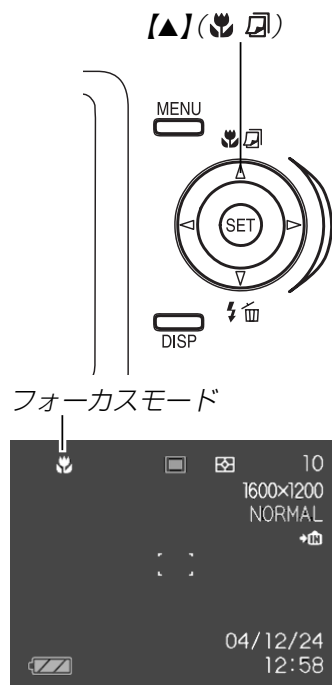
## ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ(接写)、無限遠、マニュアルフォーカスの4種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. RECモードにします。


2. **[▲]**()**[▶]**を押して、ピント合わせの方法を選びます。

- **[▲]**を押すたびに【液晶モニター】に次の順でピント合わせの方法が表示され、切り替わります。



表示なし(オートフォーカス)：  
自動的にピントを合わせます。

- アイコンガイドを使用している場合は、“**AF**(オートフォーカス)”を選んでください(107ページ)。

 (マクロ<接写>)：

近くのを撮影するときに使用します。

 (無限遠)：

遠景を撮影するときに使用します。

**MF**(マニュアルフォーカス)：

手動でピントを合わせることができます。



## 自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

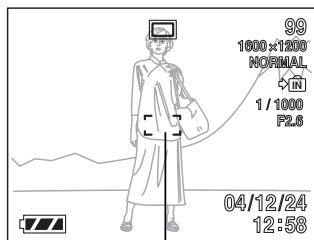
オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き、自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲：約60cm～∞

### 1. 【▲】(📷)を何回か押して、フォーカスモード表示を消します。

- アイコンガイドを使用している場合は、“AF(オートフォーカス)”を選んで下さい(107ページ)。

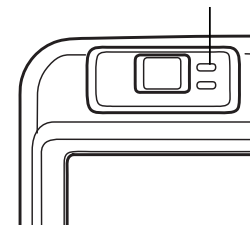
### 2. ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。



【フォーカスフレーム】

- 【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。

緑の【動作確認用ランプ】



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

### 3. 【シャッター】を全押しして、撮影します。

- 参考**
- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロ(55ページ)の範囲までピント調整を行います。

## ■ オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカスモード、マクロモードでは、オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。設定によって【フォーカスフレーム】の形状も変わります。

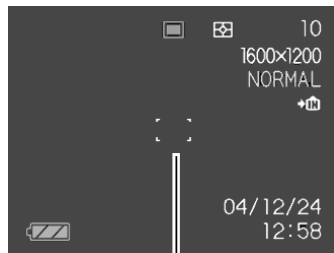
1. RECモードで【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

スポット：中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(57ページ)を活用した撮影に便利です。

マルチ：【シャッター】を半押しすると、7つの測距点の中で、距離が一番近い被写体にピントを合わせます。集合写真などに便利です。

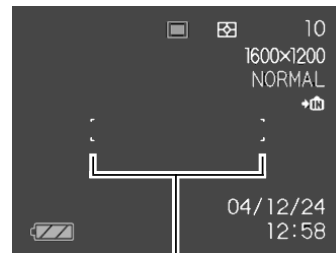
- 参考** • “マルチ”の場合、幅広い【フォーカスフレーム】が表示されます。【シャッター】を半押しすると、ピントが合った場所の【フォーカスフレーム】が表示されます。

“スポット”の場合



【フォーカスフレーム】

“マルチ”の場合



【フォーカスフレーム】

## 近くを撮影する(マクロ)

マクロでは近距離で自動的にピントを合わせることができます。近くのを撮影(接写)するとき 사용합니다。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が動き、自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲：約10cm～70cm(広角時)  
約60cm～70cm(望遠時)

1. 【▲】(📷)を何回か押して、“📷”を表示させます。

### 2. 撮影します。

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。
- 【動作確認用ランプ】/【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

**重要!** • マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像に影が映し込まれることがありますので、ご注意ください。

## 撮影する(応用編)

- 参考**
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカス(54ページ)の範囲までピント調整を行います。
  - マクロ(接写)撮影時に光学ズーム(44ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。  
例：🌸10cm-50cm

### 遠くを撮影する(無限遠)

景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. **[▲]**(🌸📷)を何回か押して、“∞”を表示させます。
2. 撮影します。

### 手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約10cm~∞
3倍	約60cm~∞

1. **[▲]**(🌸📷)を何回か押して、“MF”を表示させます。

- 手順2で拡大表示される範囲が枠で囲まれます。



枠

## 2. 【液晶モニター】で確認しながら、【◀】【▶】を押してピントを合わせます。

【◀】：近い側にピントを合わせる

【▶】：遠い側にピントを合わせる



マニュアルフォーカスの位置

- 【液晶モニター】にはマニュアルフォーカスの位置が表示され、おおよそのピントの位置が確認できます。
- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。

## 3. 【シャッター】を押して撮影します。

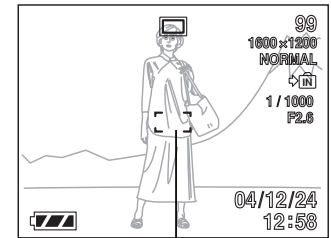
**重要!** • マニュアルフォーカス時は「左右キー設定」(79ページ)により設定されている【◀】【▶】を押しての動作は無効になり、ピント合わせの動作が優先されます。

**参考** • マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(44ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。  
例：MF 10cm-∞

## フォーカスロック

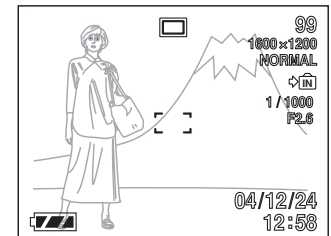
撮影したい構図で【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード(🌸)で使用できます。

### 1. ピントを合わせたい被写体を【液晶モニター】で見ながら、【シャッター】を半押しします。



【フォーカスフレーム】

### 2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。



### 3. 【シャッター】を全押しして、撮影します。

**参考** • フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

## 露出を補正する(EVシフト)

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正值：-2.0EV~+2.0EV

補正単位：1/3EV

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“EVシフト”と選び、【▶】を押します。



露出補正表示

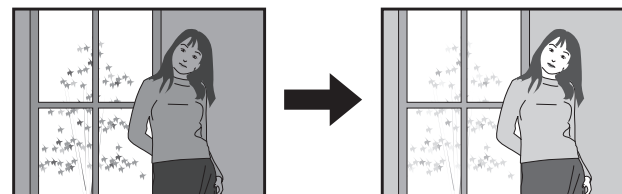
3. 【▲】【▼】で露出補正值を選び、【SET】を押します。

- これで露出補正值が設定されました。

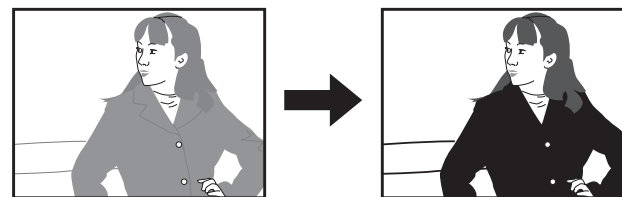


露出補正表示

【▲】：+方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。



【▼】：-方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。



- 露出補正值をもとに戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

## 4. 撮影します。

- 重要!** • 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。
- 参考** • 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正值を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(74ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】で露出値が補正できるように切り替えられます(79ページ)。

## ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。


1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。



3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

- オート : 自動的にホワイトバランスを調整します。
- ☀ 太陽光 : 晴天時の野外での撮影用
- ☁ 曇天 : 薄雲～雨天の野外や、木陰などでの撮影用
- 🌳 日陰 : ビルの陰など極端に色温度が高いところでの撮影用
- 💡<sub>1</sub> 蛍光灯1 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
- 💡<sub>2</sub> 蛍光灯2 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

## 撮影する(応用編)

-  電球 : 電球の雰囲気を消した撮影用  
マニュアル : その場の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」を参照してください。

- 参考**
- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点をカメラが自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光や曇天など光源を指定する固定モードをご使用ください。
  - キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】でホワイトバランスが変更できるように切り替えられます(79ページ)。
  - キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときにアイコンガイド(107ページ)を使用している場合は、“AWB(オートWB)”を選んでください。

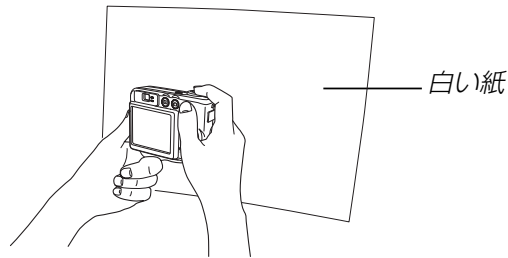
## マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードでは、複数の光源下など難しい環境において調整できる範囲に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定は、白い紙などを画面に一杯に写した状態で行ってください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“マニュアル”を選びます。
  - 【液晶モニター】には、前回マニュアルホワイトバランスを設定した際のバランスで被写体が表示されます。



4. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。



- “完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。

5. 【SET】を押します。

- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

- 参考** • 一度設定したマニュアルホワイトバランスは、新たにマニュアルホワイトバランスを設定し直さない限り、電源を入/切しても保持されたままとなります。

## 高速で連続撮影する(高速連写モード)


【シャッター】を押すたびに1枚だけ撮影する1枚撮影モードと異なり、【シャッター】を押し続けている間、連続撮影することができます。

- 撮影速度：約3枚/秒(ただし、シャッター速度が遅くなると、撮影間隔は長くなります)
- 撮影枚数：最大3枚

1. REC モードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“連写”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。


- 【液晶モニター】に“”が表示されます。
- “切”を選ぶと、高速連写はできません。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

- 【シャッター】を押している間、高速で連続撮影します。【シャッター】から指を離すと、撮影は終了します。



## 撮影する(応用編)

- 重要!**
- 撮影中は、【液晶モニター】に撮影した画像は表示されません。
  - 3枚撮影が終了すると、【液晶モニター】に“処理中ですしばらくお待ちください”というメッセージが表示されます。
  - 高速連写では、フラッシュは“” (発光禁止)となります。
  - 高速連写では、トリプルセルフタイマーは使用できません(50ページ)。
  - カップリングショット/プリショット/ビジネスショット撮影しているとき、高速連写はできません(66、67、68ページ)。
  - 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないように注意してください。
  - 連写中にメモリーの残り容量が足りなくなった場合、高速連写は途中で終了します。

## さまざまなシーンを選んで撮影する(ベストショットモード)

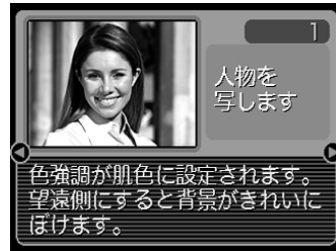
23種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

シーンNo.	内蔵シーン
1	人物を写します
2	風景を写します
3	風景と人物を写します
4	カップリングショット(66ページ)
5	プリショット(67ページ)
6	子供を写します
7	キャンドルライトで人物を写します
8	パーティーを写します
9	ペットを写します
10	花を写します
11	緑を鮮やかに写します
12	夕日を写します
13	夜景を写します
14	夜景と人物を写します
15	花火を写します
16	食べ物を写します
17	文字を写します
18	コレクションを写します
19	白黒
20	レトロ

シーンNo.	内蔵シーン
21	トワイライト
22	名刺や書類を写します(68ページ)
23	ホワイトボードなどを写します(68ページ)
	新規登録(64ページ)

## 1. RECモードにして、“撮影モード”を“**BS** ベストショット”に設定します。

- ベストショットモードに設定すると、シーンのサンプル画像が表示されます。
- 設定のしかたは、「撮影モードを設定する」(38ページ)をご覧ください。
- キーカスタマイズ機能を使うと【◀】【▶】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます。(79ページ)



## 2. 【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。

## 3. 撮影します。

- 重要!**
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
  - 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
  - シーンを選んだ後から【SET】を押し、【◀】【▶】で撮影したいシーンを選んで【SET】を押すと、シーンを選び直すことができます。
  - 選んだシーンの各種設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
  - 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行っています。このノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
  - 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、手ぶれを防ぐために、三脚の使用をおすすめします。

- 参考** ● ベストショットモードで電源を入れたとき、または【◀】【▶】で撮影モードをベストショットモードに切り替えたとき、約2秒間、操作ガイドと現在選ばれているシーンのサンプル画像が表示されます。



## 撮影したいシーンを登録する(カスタム登録)

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに登録して、呼び出すことができます。呼び出した画像の設定内容と同じ設定で撮影することができます。

1. RECモードにして、“撮影モード”を“**BS** ベストショット”に設定します(38ページ)。
  - ベストショットモードに設定すると、シーンのサンプル画像が表示されます。

2. 【◀】【▶】を押して、“新規登録”を表示させます。



3. 【SET】を押します。
4. 【◀】【▶】を押して、登録したい画像を選びます。



## 5. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。

- 登録が完了します。
- 撮影できる状態になります。以降、63ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。



- 重要!**
- 本機では、内蔵されているシーンのあとに“マイベストショット”(カスタム登録したシーン)の順番でシーンが登録されます。
  - 内蔵メモリーをフォーマット(106ページ)すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいますので、その場合は必要に応じてカスタム登録し直してください。

## 参考

- 登録される設定内容は下記の通りです。  
フォーカスモード、EVシフト、フィルター、測光方式、ホワイトバランス、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、シャープネス、彩度、コントラスト、フラッシュモード、ISO感度
- 本機で撮影された画像からのみ設定内容を読み取ることができます。
- 登録可能件数は最大999件となります。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- カスタム登録したシーンのファイル名は、「UQR61nnn.JPE(n=0~9)」となります。
- カスタム登録したシーンを消去したい場合は、ベストショットモードでシーンを選ぶときに、カスタム登録したシーンを表示させ、【▼】(🔌🗑️)を押して削除するか、パソコンを使って内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダ内から消去したいシーンのファイルを削除してください(132ページ)。

## 二人で記念撮影をする(カップリングショット)

一画面を2つに分けて2回撮影し、その後自動合成して1枚の画像にする機能です。他の人に撮影を頼むことができないときでも、全員揃って記念撮影できます。この機能はベストショットモード(62ページ)の中にあります。

- 1回目の撮影  
撮影者以外を撮影する。



- 2回目の撮影  
背景の重なり具合を確認しながら撮影者のみを撮影する。



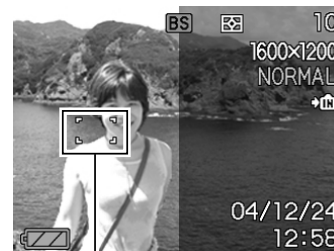
- 合成



1. RECモードにして、“撮影モード”を“**[BS]**ベストショット”に設定します(38ページ)。

2. **[◀][▶]**で“カップリングショット”のシーンを選び、**[SET]**を押します。

3. 最初に**[液晶モニター]**で**[フォーカスフレーム]**を左側部分の被写体に合わせます。



【フォーカスフレーム】

- カップリングショットでは、“AFエリア”(55ページ)が自動的に“スポット”になります。

4. **[シャッター]**を押して、左側部分を撮影します。

- この撮影で下記の情報が固定されます。  
フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ

5. 次に【液晶モニター】上で半透明で表示されている左側部分と、現在の背景が正しく重なるようにフレームを合わせます。

- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。



半透明の画像

6. 【シャッター】を押して、右側部分を撮影します。

**重要!** • カップリングショットでは、撮影時に内蔵メモリーまたはメモリーカードのどちらかを使用している方のメモリーを一時的に使用します。メモリーの容量が残り少ないと、撮影中にエラー表示が出ることがあります。その場合は不要な画像を消去してから再度撮影してください。

## 好みの構図で記念撮影をする(プリショット)

プリショット機能は人に撮影を依頼するとき便利な機能です。この機能では一度の撮影で2回の撮影を行います。1回目の撮影で撮影画像を半透明の状態【液晶モニター】上に表示し、2回目では表示されている半透明の画像を目安に最終的な撮影を行います。2回目に撮影した画像が記録されます。この機能はベストショットモード(62ページ)の中にあります。

- 好みの構図を自分で撮影



- 構図に合わせて他の人に撮影してもらう



- 2回目だけの画像が記録される



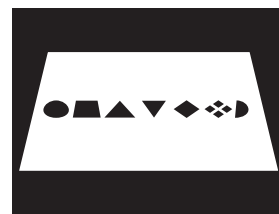
- RECモードにして、“撮影モード”を“**[BS]**ベストショット”に設定します(38ページ)。
- [◀][▶]**で“プリショット”のシーンを選び、**[SET]**を押します。
- [シャッター]**を押して、最初に仮撮影を行います。
  - この操作で撮影した画像は操作4で半透明で表示されますが、最終的にはカメラに保存されません。
  - この撮影で下記の情報が固定されます。  
フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ
- 次に他の人にカメラを渡して、**[液晶モニター]**上で半透明で表示されている背景と、現在の背景が正しく重なるように合わせてもらいます。
  - [MENU]**を押すと、この撮影をキャンセルし、操作3に戻ることができます。
- [シャッター]**を押して、撮影してもらいます。
  - この操作で撮影した画像がカメラに保存されます。



半透明の画像

## 名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット機能)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットでは、斜めから撮影した画像を自動的に正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



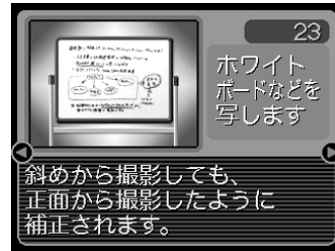
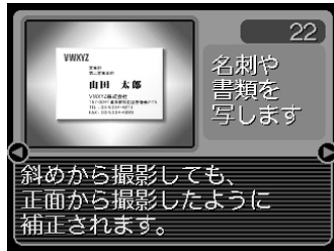
補正処理前



補正処理後

## ■ ビジネスショット用シーン

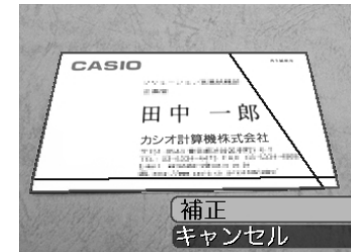
- 名刺や書類を写します
- ホワイトボードなどを写します



- 重要!**
- 被写体が【液晶モニター】に収まるような構図で撮影してください。被写体が【液晶モニター】からはみ出すと認識できません。
  - 被写体と背景が同色の場合、認識できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- 参考**
- 名刺や書類の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は台形歪みが生じた画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

## ビジネスショット機能で撮影する

1. RECモードにして、“撮影モード”を“**[BS]** ベストショット”に設定します(38ページ)。
2. **[◀][▶]**でビジネスショット用のシーンを選び、**[SET]**を押します。
3. 撮影します
  - 補正確認画面が表示されます。ただし、補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(158ページ)。その後、撮影した元画像を保存します。
4. **[◀][▶]**で補正候補を選びます。





5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押します。

- “キャンセル”を選ぶと、補正せずに撮影した元の画像を保存します。



- 重要!** ● ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても1600×1200pixelsの画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が1600×1200pixelsよりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。


## 動画を撮影する(ムービーモード)

メモリー容量いっぱい動画を撮影することができます。

- ファイル形式：AVI形式  
AVI形式は、Open DML グループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。
- 画像サイズ：320×240pixels
- 動画ファイルサイズ：約300KB/秒
- 撮影可能なムービーの時間
  - 一度に撮影可能な最長時間：メモリー容量による
  - 撮影可能なトータル時間：内蔵メモリーで最長約30秒、64MBのSDメモリーカードで最長約3分25秒

- 参考** ● ムービーモードで撮影したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

## 1. RECモードにして、“撮影モード”を“ムービー”に設定します(38ページ)。

- ムービーモードに設定すると、【液晶モニター】に“”が表示されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで撮影モードを切り替えることができます(79ページ)。




## 2. 撮影する被写体にカメラを向け、【シャッター】を押します。

- 残りのメモリーいっぱい、に、動画撮影が続きます。
- 動画撮影中は【液晶モニター】に“残り撮影時間”を表示します。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます。
- 動画撮影を途中で終了させたいときは、もう一度【シャッター】を押してください。



## 3. 動画撮影が終了したら、動画ファイルがカメラのメモリーに保存されます。

- 重要!**
- フラッシュは発光しません。
  - 使用するメモリーカードによっては、記録に時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、と●RECが点滅します。